国語教育のイメージ（４月２０日版）

平成２８年４月２０日
教育課程部会
国語ワーキンググループ
資料４

高等学校基礎学力テスト（仮称）

改善のためのPDCAサイクル

【高等学校】

◎国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、自分の思いや考えを形成し深める資質･能力を育成する。
①生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な国語の特質（仮）について理解し適切に使うことができるようにする。
②創造的･論理的思考や感性･情緒を働かせて思考力や想像力を伸ばし、社会や他者との関わりの中で、国語で効果的に表現したり的確に理解したりするとともに、実社会の視点から、新たな考えを創造する力を高めるようにする。
③言葉を通じて伝え合う意義を認識するとともに、言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその向上を図るようにする。

全国学力・学習状況調査

改善のためのPDCAサイクル

【中学校】

◎国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、言語感覚を豊かにし、自分の思いや考えを形成し深める資質･能力を育成する。
①社会生活に必要な国語の特質（仮）について理解し適切に使うことができるようにする。
②創造的･論理的思考や感性･情緒を働かせて思考力や想像力を養い、社会との関わりの中で、 国語で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、新たな考えを創造する力を高めるようにする。
③言葉を通じて伝え合う価値を認識するとともに、言語文化に対する関心をもち、国語を尊重するようにする。

改善のためのPDCAサイクル

【小学校】

◎国語で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、言語感覚を養い、自分の思いや考えを形成し深める資質･能力を育成する。
①日常生活に必要な国語の特質（仮）について理解し使うことができるようにする。
②創造的･論理的思考や感性･情緒を働かせて思考力や想像力を養い、人と人との関わりの中で、国語で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、新たな考えを創造する力を高めるようにする。
③言葉を通じて伝え合うよさを味わうとともに、言葉に対する関心を深め、国語を尊重するようにする。

【幼児教育】

（教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質･能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

･身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせるなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。
･生活や遊びの中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感に応じてこれらを活用するようになる。
･言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語などを親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、言葉による表現を楽しむようになる。

別　添　6

小・中・高等学校を通じて一貫した目標設定の在り方について

改訂版（案）

中央教育審議会教育課程企画特別部会
外国語ワーキンググループ
平成28年1月12日　現在

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会が発表。

2016年1月12日現在　取扱注意

英語教育の抜本的強化のイメージ

（秋以降、外国語ＷＧにおいて専門的に検討予定）

※具体的な小学校の授業時数については、年内~年明けを目途に教育課程全体の構成とともに検討を進め、一定の方向性を提示

CEFR: C1 / B2 / B1 / A2 / A1

現状

高校で1800語

【高】コミュ英Ⅲ
【高】コミュ英Ⅱ
【高】コミュ英Ⅰ（必履修）
【高】英語表現Ⅱ
【高】英表Ⅰ
【高】英語会話

中学で1200語

【高】コミュ英基礎
【中】英語
活動型
【小】英語（活動）

高校卒業レベルで4000語～5000語程度

【高】英コミュⅢ
【高】英コミュⅡ
【高】英コミュⅠ（必履修）
【高】論理・表現Ⅲ（仮称）
【高】論理・表現Ⅱ（仮称）
【高】論理・表現Ⅰ（仮称）
専門教科（英語）
【中学】英語
【小】英語（教科型）　年間70単位時間
【小】英語（活動型）　年間35単位時間

高校で2000～2200語程度

中学校で1600～1800語程度

小学校で600～700語程度

高校卒業レベルで3000語程度

現状

【高等学校】
○目標：コミュニケーション能力を養う
○授業は英語で行うことが基本

国の目標（英検準２～２級程度等５０％）→現状３２％
・生徒の学習意欲、「話す」「書く」に課題
・言語活動が十分でない

【中学校】
教科型を通じた4技能の総合的育成
○目標：コミュニケーション能力の基礎を養う
○前回改訂で週3⇒週4に増

国の目標(英検３級程度等５０％)→現状３５％・言語活動が十分でない

年間140単位時間（週4コマ程度）

【小学校高学年】
○目標：「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション能力の素地を養う
○学級担任を中心に指導

年間３５単位時間（週１コマ程度）

外国語活動が成果を上げ、児童の「読む」「書く」も含めた系統的な学習への知的欲求が高まっている状況

新たな英語教育

成熟社会にふさわしい我が国の価値を海外展開したり、厳しい交渉を勝ち抜く人材の育成

大学や海外、社会で英語力を伸ばす基盤を確実に育成

【高等学校】
目標例：例えば、ある程度の長さの新聞記事を速読して必要な情報を取り出したり、社会的な問題や時事問題など幅広い話題について課題研究したことを発表・議論したりすることができるようにする
○ 幅広い話題について情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりする能力、他者を尊重しながら発表、討論・議論、交渉等ができるコミュニケーション能力を養う
○ 授業を英語で行うことを基本とするとともに、①4技能を総合的に扱う言語活動、②特に、課題がある「話すこと」、「書くこと」において発信力を強化する言語活動を充実

【中学校】
目標例：例えば、短い新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりして、その概要を伝えることができるようにする
○ 他者を尊重し、具体的で身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。
○ 互いの考えや気持ちなどを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業を英語で行うことを基本とする
年間140単位時間

教科型【小学校高学年】
目標例：例えば、馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、家族、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできるようにする
○相手意識をもって聞いたり話したりすることに加えて、読んだり書いたりすることについての態度の育成も含めた、コミュニケーション能力の基礎を養う。
○学級担任が専門性を高め指導、併せて専科指導を行う教員を活用、ALT等を一層積極的に活用
教科として系統的に学ぶため、効果的な「繰り返し学習」としてモジュール学習も活用
年間70単位時間 ※

活動型【小学校中学年】
○ 目標：相手意識を持って聞いたり話したりすることを中心にしたコミュニケーション能力の素地を養う
○ 主に学級担任がALT等を一層積極的に活用したT・Tを中心とした指導
年間35単位時間 ※

改善のためのPDCAサイクル
高等学校基礎学力テスト（仮称）
改善のためのPDCAサイクル
全国的な英語4技能学力調査

社会，地理歴史，公民における教育のイメージ（たたき台）

平成28年4月22日
教育課程部会社会・地理歴史・公民ワーキンググループ 資料17－1

【高等学校】

地理歴史科

◇広い視野に立って，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養うために，社会的な見方や考え方を培い，以下の三つの資質・能力を育成する。
○日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
○地理や歴史に関わる諸事象について，概念等を活用して多面的・多角的に考察したり，構想したりする力，考察・構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養うようにする。
○地理や歴史に関わる事象について課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。

公民科

◇広い視野に立って，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養うために，社会的な見方や考え方を培い，以下の三つの資質・能力を育成する。
○選択・判断の手掛かりとなる概念や理論，及び倫理，政治，経済等に関わる諸課題に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
○現代の諸課題について，概念等を活用して多面的・多角的に考察したり，構想したりする力，合意形成を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うようにする。
○人間と社会の在り方に関わる課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される人間としての在り方生き方についての自覚，自国を愛しその平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めるようにする。

【中学校】社会科

◇広い視野に立って，グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者を目指す公民的な資質・能力を養うために，社会的な見方や考え方を培い，以下の三つの資質・能力を育成する。
○我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
○社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題について構想したりする力，考察・構想したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養うようにする。
○社会的事象について，課題を意欲的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。
●主体的に社会の形成に参画しようとしたり，資料から読み取った情報を基にして社会的事象について考察し表現したりするなどの課題解決的な学習の充実を図る。
◎地理的分野では，地理的技能の育成を一層重視するとともに，持続可能な社会づくりの観点から様々な課題を考察させ，歴史的分野では，グローバル化に対応する観点から世界の歴史の扱いを充実させ，公民的分野については，社会参画への手掛かりを得させるために身に付けた概念を現実の社会的事象と関連付けて理解させる指導の充実を図る。

【小学校】社会科（第3～6学年）

◇グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者を目指す公民的な資質・能力を養うために，社会的事象の見方や考え方を培い，以下の三つの資質・能力を育成する。
○地域や我が国の地理的環境，社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化，それらと人々の生活との関連について理解するとともに，調査や諸資料から情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
○社会的事象の特色や意味などについて多角的に考える力，社会への関わり方を選択・判断する力，思考・判断したことを表現する力を養うようにする。
○社会的事象について，課題を意欲的に解決しようとする態度を養うとともに，多角的な考察や理解を通して涵養される地域社会に対する誇りと愛情，我が国の国土や歴史に対する愛情，地域社会の一員としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚を養うようにする。
●社会的事象から学習問題を見出し，問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し，追究結果を振り返るなど，問題解決的な学習の充実を図る。
◎世界の国々との関わりや我が国の政治の働きへの関心を高める学習，社会に見られる課題を把握して，社会の発展を考える学習の充実を図る。災害における地方公共団体の働き，地域の人々の工夫や努力，地理的・歴史的観点を踏まえた災害に関する理解，防災情報に基づく適切な行動の在り方等に関する指導の充実を図る。

【小学校】生活科（第1，2学年）

○自分と身近な人々及び地域の様々な場所，公共物などとの関わりに関心をもち，地域のよさに気付き，愛着を持つことができるようにするとともに，集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え，安全で適切な行動ができるようにする。
○身近な人々，社会及び自然との関わりを深めることを通して，自分のよさや可能性に気付き，意欲と自信をもって生活することができるようにする。
○身近な人々，社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに，それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて，言葉，絵，動作，劇化などの方法により表現し，考えることができるようにする。

幼児教育

○よいことや悪いことが分かり，相手の立場に立って行動するようになり，自分の気持ちを調整し，友達と折り合いを付けながら，決まりの大切さが分かり守るようになる。
○情報を伝え合ったり，情報に基づき思い合わせたりするようになるとともに，公共の施設を大切にしたり，国旗や国際理解への意識等が芽生えるようになる。
○身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり，物の性質や仕組み等に気付いたり，予想したり，工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになる。

幼・小・中・高等学校を通じた算数・数学教育のイメージ(案)

平成28年4月18日
教育課程部会
算数・数学ワーキンググループ
資料7－1

高等学校基礎学力テスト（仮称）

改善のためのPDCAサイクル

【高等学校】

◎ 事象を数学化し，論理的に考察し，本質を明らかにするなどの数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を育成する。

① 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり表現したりするための知識・技能を身に付ける。

② 事象を数学を活用して論理的に考察する力，思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力や，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

③ 数学のよさを認識し，数学を活用して粘り強く考え，数学的論拠に基づき判断したり，問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。

- それぞれの内容を生活と関連付けたり，生徒の疑問を取り上げたりするなど生徒の数学学習に対する関心や意欲を高める。
- 学習の過程を振り返り，本質を明らかにしたり学習内容を整理し直したりして，自ら見いだした問題を解決する活動を充実する。

全国学力・学習状況調査

改善のためのPDCAサイクル

【中学校】

◎ 事象を数学化し，論理的に考察するなどの数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を育成する。

① 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり表現したりするための知識・技能を身に付ける。

② 事象を数学を活用して論理的に考察する力，数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力や，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

③ 数学のよさを実感し，数学を生活や学習に活用して考えたり，問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。

- 問題解決に必要な情報を生徒自らが集めたり選択したりする活動や，帰納的に考えることなどから自ら決まりを見付ける活動，見いだした決まりを既習の内容を生かして演繹的に説明する活動を充実する。
- 既習の内容を振り返って関連を図ったり，新たに学んだ内容を用いると，どのようなことができるようになったのかなどについて明らかにしたりする活動を充実する。

改善のためのPDCAサイクル

【小学校】

◎ 算数の学習を生活や学習に活用するなどの数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を育成する。

① 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに，日常の事象を数理的に処理するための知識・技能を身に付ける。

② 日常の事象を数理的にとらえ見通しをもち筋道を立てて考察する力，基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力や，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。

③ 数学のよさに気づき，算数の学習を生活や学習に活用したり，学習を振り返ってよりよく問題解決したりする態度を養う。

- 事象を数理的に考察したり，自分の考えを数学的に表現し処理したり，振り返ったりする学習活動を充実する。
- 具体物，図，数，式，表やグラフ相互の関連を図り、問題解決する学習活動を充実する。

【幼児教育】（教育課程部会幼児教育部会において,本ワーキンググループでの議論を踏まえ,幼児期に育みたい資質・能力,幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

○ 生活や遊びの中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感に応じてこれらを活用するようになる。

理科教育のイメージ（20160329案）

平成２８年３月２９日
教育課程部会
理科ワーキンググループ
資料６－１

高等学校基礎学力テスト（仮称）

改善のためのPDCAサイクル

全国学力・学習状況調査

改善のためのPDCAサイクル

改善のためのPDCAサイクル

【高等学校】

≪発展：explore science≫（Especially Science for Interested students：世界をリードする人材として）

◎ 科学的課題に徹底的に向き合い，考え抜いて行動する態度を養う。科学的な探究能力を活用して，専門的な知識と技能の深化・統合化を図るとともに，自発的・創造的な力を養う。

● 科学的な探究能力の育成を主体的に図ることができる「課題研究」を充実させる。（理数科，数理探究（仮称））

≪応用：advanced science≫（Science for Interested students：科学技術立国としての日本を支える人材として）

◎ 自然の事物・現象について，科学的に探究する能力と態度を養うとともに，論理的な思考力や創造性の基礎を養う。

● 「観察・実験」や「探究活動」を一層充実させて，科学的な探究能力（課題解決能力）の育成を図る。また，日常生活や他教科（数学，情報，保健体育，地理など）との関連を図る。

≪基礎：basic science≫（Science for All students：善良な市民として）

◎ 自然の事物・現象について，問題を明確にして課題を設定し，根拠に基づく結論や意思決定を導き出すことができる力を育てるとともに，科学的な見方や考え方を養う。

○ ①自然に対する畏敬の念を持ち，科学の必要性や有用性を認識するとともに，科学的根拠に基づき，多面的・総合的に判断する態度を養う。
②目的意識をもって観察・実験し，科学的に探究したり，科学的な根拠をもとに表現したりする力を養う。
③概念や原理・法則の体系的な理解と科学的探究についての理解や，探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能を養う。

● 中学校で身に付けた資質・能力を活用して，科学的な探究のプロセスを体験させる「観察・実験」や「探究活動」を充実させる。また，日常生活や他教科（数学，情報，保健体育，地理など）との関連を図る。

【中学校】

◎ 自然の事物・現象について，問題を明確にして課題を設定し，根拠に基づく結論を導き出す力を育てるとともに，科学的な見方や考え方を養う。

○ ①自然を敬い，自然の事物・事象にすすんでかかわり，科学的に探究する態度と根拠に基づき判断し表現する態度を養う。
②目的意識をもって観察・実験し，得られた結果を分析・解釈する力を養う。
③概念や原理・法則の基本的な理解や観察・実験等の基本的な技能を養う。

● 小学校で身に付けた，比較，分類，関係付け，条件制御などの資質・能力をさらに高め，自然事象の把握，問題の設定，予想・仮説の設定，検証計画の立案，観察・実験の実施，結果の処理，考察・推論，表現等の学習活動を充実する。また，日常生活や他教科との関連を図る。
例えば，１年：自然の事物・事象に進んでかかわり，その中から問題を見いだす。２年：解決方法を立案して実行し，結果の妥当性を検討する。３年：問題解決過程のすべての過程を振り返り，その妥当性を検討する。

【小学校】

◎ 自然の事物・現象について，問題を見いだし，解決する力を育てるとともに，科学的な見方や考え方を養う。

○ ①自然を大切にし，生命を尊重する態度，科学的に探究する態度，妥当性を検討する態度を養う。
②見通しをもって的確に観察，実験などを行い，問題解決の能力を養う。
③自然の事物・現象についての理解を図り，観察・実験等の基本的な技能を養う。

● 観察・実験の結果を整理し考察し表現する学習活動を充実する。また，日常生活や他教科との関連を図る。

● 問題解決の能力，例えば，３年：差異点や共通点に気付き問題を見いだす力，４年：既習事項や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想する力，５年：質的変化や量的変化，時間的変化に着目して解決の方法を発想する力，６年：要因や規則性，関係を多面的に分析して考察し，より妥当な考えをつくりだす力を育成する学習活動を充実する。

● 目的を設定し，計測して制御するという考え方の学習活動を充実する。

（小学校低学年）
例えば，【生活科】

○ 自然とのかかわりに関心をもち，自然を大切にしたり，その不思議さに気付いたりすることができる。

○ 身近な自然を観察したり，季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして，四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに気付き，自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできる。

○ 身近にある自然を利用したり，身近にある物を使ったりなどして，遊びや遊びに使う物を工夫してつくり，その面白さや自然の不思議さに気付き，みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

○ 動物を飼ったり植物を育てたりして，それらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもち，また，それらは生命をもっていることや成長していることに気付き，生きものへの親しみをもち，大切にすることができるようにする。

【幼稚園】（教育課程部会幼児教育部会において、本部会での議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせるなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。
・自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心が高まりつつ、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。
・身近な動植物を命あるものとして、いたわり大切にする気持ちを持つようになる。

豊かな情操の育成を目指した小・中・高等学校修了時の児童生徒の姿
～音楽科、芸術科（音楽）で育成すべき資質・能力～（検討のたたき台）

平成２８年２月２３日
教育課程部会
芸術ワーキンググループ
（第６回）資料３（修正）

高等学校

【芸術科（音楽Ⅲ）】

【芸術科（音楽Ⅱ）】

【芸術科（音楽Ⅰ）】※

○豊かな感性や生涯にわたり音楽を愛好する心情が育っている。

○創造的な表現と鑑賞の能力を働かせて、豊かに表現したり鑑賞したりすることができる。

例えば・・・　・音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、根拠をもって音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値などについて批評するなどして味わって聴いたりすることができる。
・他者と協働して新たな価値を創造することができる。　など

○生活や社会の中の音や音楽の働きや音楽文化について、深く理解し尊重するとともに、音楽文化の担い手としての意識をもっている。

例えば・・・　・生活や社会との関わりにおいて、TPOに応じた心地よい音環境を求める意識をもっている。
・音楽が、伝統や文化などの影響を受けて生み出されてきた意味や価値を理解することができる。
・音楽活動を通して、多様な音楽文化についての意味や価値を理解することができる。　など

※Ⅰを付した科目のうち、1科目を共通必履修科目とする。

中学校

【音楽科】

○豊かな感性や音楽を愛好する心情が育っている。

○音楽活動の基礎的な能力を働かせて、豊かに表現したり鑑賞したりすることができる。

例えば・・・　・音楽を形づくっている要素の知覚と感受の関連を図り、音楽のよさや美しさなどについて自分の考えをもちながら、音楽表現を工夫したり、自分にとっての価値を明らかにして味わって聴いたりすることができる。
・他者と音や言葉による交流を通して考えを広げたり深めたりして、自分にとっての新たな価値を創造することができる。　など

○生活の中の音や音楽の働きや、音楽文化について理解し、尊重している。

例えば・・・　・身の回りの音や音楽に関心をもち、音環境に対する意識をもっている。
・我が国や郷土の伝統音楽を含む、世界の様々な音楽それぞれがもつよさや美しさを味わい、音楽の多様性を理解することができる。
・我が国で長く歌い継がれている歌曲のよさを感じ取りながら歌うことができる。　など

小学校

【音楽科】

○感性や音楽を愛好する心情が育っている。

○音楽活動の基礎的な能力を働かせて、表現したり鑑賞したりすることができる。

例えば・・・　・音楽を形づくっている要素を聴き取り感じ取りながら、こう表したいという思いや意図をもって表現したり、楽曲や演奏のよさを考え、味わって聴いたりすることができる。
・音や言葉によるコミュニケーションを図りながら、自分にとって価値のある創造的な音楽活動をすることができる。　など

○生活の中の音や音楽や、我が国や諸外国の音楽に親しみ、それらを大切にしている。

例えば・・・　・生活の中の様々な音や音楽の特徴に気付くことができる。
・我が国や郷土の音楽及び諸外国の音楽など、いろいろな種類の音楽に関心をもち、そのよさを味わうことができる。
・世代や地域を超えて親しまれている日本のうたに親しみ、曲にふさわしい歌い方で歌うことができる。　など

幼児教育

（教育課程部会幼児教育部会において、芸術ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせるなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。

・生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する意欲が高まるようになる。

豊かな情操の育成を目指した小・中・高等学校修了時の児童生徒の姿
～図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）で育成すべき資質・能力～（検討のたたき台）

平成２８年２月２３日
教育課程部会
芸術ワーキンググループ
（第６回）資料１（修正）

※〔〕内は、本WGの議論に関係する教科

高等学校

【芸術科（美術Ⅲ）】

【芸術科（美術Ⅱ）】

【芸術科（美術Ⅰ）】※

○豊かな感性や生涯にわたり美術を愛好する心情が育っている。
○創造的な表現と鑑賞の能力を働かせて、豊かに表現したり、鑑賞したりすることができる。
例えば・・・
・造形要素の働きなどを考え、自己の思いや考えを創造的に表現したり、美術作品などのよさや美しさなどを感じ取り、理解を深めたりすることができる。
・形や色彩などの造形的な視点を明確にし、対象を分析的に捉えたり、根拠をもって批評したりするなどして美術作品などに対する理解を深めることができる。
・形や色彩などのコミュニケーションを通して、創造的な新たな価値をつくりだすことができる。
など
○生活や社会の中の美術の働きや、美術文化について、深く理解し，美術文化を尊重している。
例えば・・・
・生活や社会を明るく心豊かにする美術の働きについて考え、理解することができる。
・伝統的かつ創造的な日本の美術文化について理解することができる。
・日本及び諸外国の美術文化についての理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めることができる。 など

※Ⅰを付した科目のうち、1科目を共通必履修科目とする。

【芸術科（工芸Ⅲ）】

【芸術科（工芸Ⅱ）】

【芸術科（工芸Ⅰ）】※

○豊かな感性や生涯にわたり工芸を愛好する心情が育っている。
○創造的な表現と鑑賞の能力を働かせて、豊かに表現したり、鑑賞したりすることができる。
例えば・・・
・造形要素の働きなどを考え、自己の思いや使う人の願いなどを考えて心豊かに表現したり、工芸作品などのよさや美しさなどを感じ取り、理解を深めたりすることができる。
・形や色彩などの造形的な視点を明確にし、対象を分析的に捉えたり、根拠をもって批評したりするなどして工芸作品などに対する理解を深めることができる。
・形や色彩などのコミュニケーションを通して、創造的な新たな価値をつくりだすことができる。
など
○生活や社会の中の工芸の働きや、工芸の伝統と文化について、深く理解し，工芸の伝統と文化を尊重している。
例えば・・・
・生活や社会を明るく心豊かにする工芸の働きについて理解することができる。
・伝統的かつ創造的な日本の工芸の伝統と文化について理解することができる。
・日本の工芸の伝統と文化についての理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めることができる。 など

中学校

【美術科】

○豊かな感性や美術を愛好する心情が育っている。
○美術の基礎的な能力を相互に働かせて、豊かに表現したり鑑賞したりすることができる。
例えば・・・ ・形や色彩などのもつ性質や感情などを考え、表したいことを基に表現したり、作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わうことができる。
・対象を形や色彩などの視点をもって分析的に捉えたり、自分の価値意識をもって批評したりして作品などの見方や感じ方を深めることができる。
・形や色彩などによるコミュニケーションを通して、自分の中に新しい意味や価値をつくりだすことができる。 など
○生活の中の美術の働きや、美術文化について、理解し，美術文化の継承と創造への関心を高めている。
例えば・・・ ・生活の中の美術の果たす役割や働きについて理解することができる。
・我が国の美術文化について理解するとともに、諸外国の美術文化との相違と共通性に気付き、美術を通して国際理解を深めることができる。 など

【技術・家庭科（技術分野）】
・材料、加工に関する技術についての基礎的・基本的な知識と技能の習得

小学校

【図画工作科】

○感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わっている。
○造形的な創造活動の基礎的な能力を相互に働かせて、表現したり鑑賞したりすることができる。
例えば・・・ ・形や色などの特徴を捉えながら、造形的な活動を思い付き表現したり、表したいことを絵や立体、工作に表現したりすることができる。
・自分たちの作品や美術作品などから、表現の意図や特徴などを捉え、よさや美しさを感じ取ることができる。
・形や色などによるコミュニケーションを通して、新しい意味や価値をつくりだすことができる。 など
○生活の中の造形や、我が国や諸外国の美術作品に親しみ、それらを大切にしている。
例えば・・・ ・生活の中の造形などに関心をもっている。
・我が国や諸外国の美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取り、それらを大切にしている。 など

幼児教育

（教育課程部会幼児教育部会において、芸術ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）
・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせるなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。
・生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する意欲が高まるようになる。

家庭科、技術・家庭科（家庭分野）における教育のイメージ（たたき台）

平成28年4月13日教育課程部会
家庭，技術・家庭ワーキンググループ
資料7－1

空間軸：社会 → 地域 → 家庭
時間軸：生涯を見通した生活 → これからの生活 → 現在・これまでの生活

【高等学校】 共通教科
◇家庭科の見方や考え方を踏まえ、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
〇生活を科学的に理解し、自立した生活者に必要な知識・技能を習得する。
〇生活の課題を解決するために、生活を科学的に探究し、生涯を見通して生活を創造する能力を育成する。
〇様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画し、 共に支え合う社会の実現に向けて家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を育成する。
●「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
◎少子高齢化等の社会への変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、子育て支援等の理解、高齢者の理解、生涯の生活設計、消費・ 環境に配慮 したライフスタイルを確立するための意思決定、健康な食生活の実践、日本の生活文化の継承・創造等に関する学習を充実する。

【中学校】
◇家庭分野の見方や考え方を踏まえ、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
〇家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
〇生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して身に付けた知識・技能を活用し、これからの生活を展望して生活を工夫し創造する能力を育成する。
〇自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、地域の人々と協働し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。
●家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
◎少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、家庭の機能の理解や、幼児、高齢者との交流等、消費・環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎、食事の役割や栄養・調理、日本の生活文化の継承等に関する学習を充実する。

【小学校(高学年)】
◇家庭科の見方や考え方を踏まえ、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
〇日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
〇生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して身に付けた知識・技能を活用し、生活をよりよくしようと工夫する能力を育成する。
〇家庭生活の大切さに気付き、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育成する。
●家庭や地域との連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
◎少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、家庭生活と家族の大切さ等、消費・環境に配慮した生活の仕方、食事の役割や栄養・調理の基礎、日本の生活文化の大切さに気付く学習を充実する。

【小学校（低・中学年）】
〇基本的な生活習慣や生活技能、身近な人々との接し方(家族や地域の様々な人々)、成長への喜び･成長を支えてくれた人々への感謝等（生活科）
〇健康によい生活についての理解（健康に過ごすための明るさの調節や換気などの生活環境）、体の発育・発達についての理解（体をよりよく発育・発達させるための調和のとれた食事）（体育科）
〇日常の生活や学習への適応及び健康・安全（基本的な生活習慣の形成、食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成等）（特別活動）
〇節度･節制（基本的な生活習慣、節度ある生活）、家族愛、家庭生活の充実等(道徳） 等

【幼児教育】（教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）
〇幼稚園生活の中で満足感や充実感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組み、見通しを持って自ら健康で安全な生活を作 り出していけるようになる。
〇家族を大切にしようとする気持ちを持ちつつ、いろいろな人と関わりながら、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に一層親しみを持つようになる。 等